

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と人間力を育み、愛校心にあふれ、地域に愛される学校をめざす。

1. 志・夢・確かな学力を獲得させ、社会で自信を持って活躍する人材を育てる。
2. 学校行事、部活動を充実させ、人間力を培い、愛校心を育てる。
3. 人権教育の推進と規範意識の向上により、豊かな人格を育む。

2 中期的目標

1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成

(1) 生徒一人ひとりが自信を持てる基礎学力の定着と活用型学力の獲得をめざす。

- ア 進路実現に対応可能な基礎学力を向上させるため、今後求められる活用型学力の獲得のため対話的でより深い学びを目標とした授業を行う。
学校教育自己診断の「授業評価」に関する項目において、2021年度まで70%以上の肯定率を維持する。(H30:「授業のわかりやすさ」72.8)
- イ コミュニケーション能力の育成と活用型学力を育成する。また、ICT機器の授業における効果的活用を促進する。
各講座での主体的・対話的な授業の導入を促進し、2021年度まで実施授業の比率を上昇させ続ける。(H30:40%)
- ウ 英語専門コースを中心に、より高いレベルでの4技能習得のため、これまでの実践に加え特にスピーキングの指導を積極的に行う。
第1学年及び第2学年において外部試験等を利用した4技能習得及びその状況を客観的に把握する。
実力判定テストにおいてもリスニングテストなどを導入する。
英語コースにおける「授業満足度」の継続的上昇。(H30:当該科目授業アンケート3.2)
- エ 放課後学習や週末課題の活用により、家庭での学習習慣を定着させる。
2年生での家庭学習の平均時間を、2021年度までに1時間以上とする。
- オ 各種検定試験を利用し資格取得によって生徒の自己肯定感を高める。
漢字・数学・情報・英語の資格検定の校内実施と受験生徒の増加に努める。
- カ 国際交流活動で英語やコミュニケーション能力、国際感覚等を高める。
外国からのスタディツアーを受け入れ、希望者による短期派遣を実施する。その他、地域の外部団体との連携による国際交流にも積極的に参加する。))

(2) 大学入試改革に対応した「確かな学力」の育成と評価を研究し、新制度入試での生徒の希望進路実現に備える。

- ア 新制度で大学入試が行われる2020年以降においても進路保障が確実にいえるよう、高大接続改革の状況をリサーチしながら、新制度に対応する「確かな学力」の育成方針・方法と評価方法について研究と実践を行う。
生徒の進路希望の実現80%以上とする。
「2020年問題検討委員会」(高大接続改革に関わる校内プロジェクトチーム(平成29年立ち上げ))による研究と研修(年2回以上の研修)
実力判定テストを「学びの基礎診断」を取り入れ、各学年に配置。生徒の学力伸長を確実に把握する。

(3) 新カリキュラムへの対応

- ア 2020年度(先行実施含む)へ学校全体として取り組むと同時に、改革のベクトルの方向性を共有
教科への情報提供と本校新カリキュラムの精査
「探究」実施の及び今後の展開

2 生徒の自信を育む「生徒指導」の展開

(1) 高校生活の基本となる生徒の規範意識を醸成する。

- ア 遅刻指導、服装指導、授業規律を徹底することにより、規範意識を育成し自尊感情と自信を高める。
遅刻数は、年間800件以下の状態の維持に努める。(H30:485件)(集計方法を変更)
落ち着いた学習環境の提供に努める。(H30:「自己診断(生徒)」70%)
学校教育自己診断(生徒)での「学校のルールを守ろうとしている」の肯定率95%以上を維持する。

(2) 教育相談・支援教育・規律指導が三位一体となった生徒指導を行なうことで安全で安心な学習環境を維持し、生徒の健全な成長を支援する。

- ア 何らかの悩みや不安のある生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育相談体制の充実を図り関係機関とも連携する。
学校教育自己診断(生徒)の教育相談に関する項目の肯定率60%以上を維持する。(H30:63.5%)
教育相談担当者等によるケース検討を年間20回以上行なう。(毎年)
生徒の障がいや特性の理解を深め、適切な「合理的配慮」と指導・評価が行なえるよう、事例検討を含めた研修を行なう。(毎年)

(3) 来校者や地域の方へのあいさつの励行による、社会性と自信の育成。

- ア 「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行なう。
学校教育自己診断(生徒)の挨拶に関する項目の肯定率80%以上を維持する。(H30:90.8%)

3 「生きる力」を育成する学校行事・部活動の充実と地域連携

(1) 伝統ある学校行事・部活動により主体性や協調性を育成し愛校心も育む。

- ア 学年進行により生徒が主体となるよう学校行事の企画・運営を工夫し、生徒に自信をつけさせ、自己有用感や自己肯定感を高める。
学校行事の満足度は85%をめざす。(H30:82.1%)
- イ 部活動運営の主体的活動を通じて、社会性やリーダーシップ、組織運営力を身につけ、逞しい人間力を育成する。
部活動入部率は、安定して70%以上となるようにする。(H30:69.5%)
- ウ 中学生の体験部活動や合同練習等の交流を推進する。

(2) 地域行事等への積極的な参加や広報活動により、地域の信頼を高め自尊感情や自己有用感を育む。

ア 地域コミュニティの行事や近隣の企業等のイベント等に参加し、「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。

イ 広報チームを核に生徒、教職員が一体となって「面倒見のよい津田校」を広報し、地域からの信頼度を高める。

ウ 独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」となる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]				学校運営協議会からの意見
主な項目における結果(%)				【第1回 7月5日実施】 ・資格検定や課題提出などの「must」でやっている部分と、自らやりたいことを自由に取 り組む「will want」の部分が両輪として存在する。基礎力をつけたあと主体性を持って 進むための転機となるのが「will want」の部分である。 ・中学校では授業改善の一環として学期に一回、全教員が1つの授業を見学して、研究協議 している。今後も、授業改善の取り組みが重要である。 ・大学では入学した学生がどのようなスキルを身に着けたのかを測る認証評価が導入されつ つある。今後、多面的なキャリア育成が望まれる。 ・ICT機器を「どう活用して何をするのか」を明確にすると同時に、現状の設備でもできる ことを整理する必要がある。また、今後ICT機器としての携帯電話の活用が重要視されそ うである。
内容	生徒	保護者	教員	
学校への満足度(学校は楽しい、通わせてよかった。)	73.8	90.2	76.9	【第2回 11月25日実施】 授業見学について ・生徒は落ち着いている。先生の「語りかける」口調や、生徒同士が語り合う場面が用意さ れているなど、対話的な学習形態がとられている。新学習指導要領に向けてすべての教員 で共有すべきことだと思う。 学校経営計画進捗状況をうけて ・正課と課外活動をどう評価するかが大学でも課題となっている。学校の取り組みの成果を単 に大学等の受験結果で見ると、人間力で見るとかを考える必要がある。個々の生徒に最 適なキャリアプランニングが望まれる。 ・広報活動が学校を活性化する。先生たちの活気、在校生のモチベーションアップにも繋が る。津田高は生徒の挨拶が気持ちいいし、CM会議など地域や外部に宣伝する材料はたく さんある。 【第3回 2月18日実施】 ・「授業がわかりやすい」のポイントが下がったが経年変化の観察は大事。数値だけでなく、 少子化の影響を受けて新入生の層、性質を見極める必要がある。 ・相談しやすい先生が増えたのはとてもよいこと。教育相談体制の充実がうかがえる。カウ ンセリングをうけることは決してネガティブでない。職員会議で各担任からの報告で情報 共有できているようである。 ・少子化と私学志向でお公立高校に志願者が集まらない傾向がある。中学生にとって魅力的 な高校生活とはなにかを探っていくべきである。津田高は学力と人間力のバランスがとれ ている。このよさを伝統としてさらに進めるべきである。行儀のよさやクラブの応援など 子どもが通っているからはじめて学校の良さがわかる。ただ、校風の良さや穏やかな環境 などは入学前は伝わりにくい。インスタグラムなど多角的な発信を検討。 ・先輩からの口コミが中学生にとってはとても大きい情報。中学校でも卒業生を招聘し進路 学習を行っている。一番近くにある津田が魅力的な学校であることはありがたい。 ・不登校傾向にある生徒も増えている。最前線に立つ担任が、ノウハウ・スキルを高めてい くことが課題である。授業力をあげる研修も必要だが、一人一人の生徒と向き合うコミュ ニケーションスキルの研修も必要かもしれない。
授業への評価(わかりやすい、学力がのびている)	66.1	81.5	73.1	
進路指導に対する評価	85.6	83.1	69.2	
生徒指導に対する評価	94.5	100	88.5	
学校行事、部活動に対する評価	80.8	82.0	80.7	
学習環境が整っている。	65.0	82.4	73.1	
【分析】 「学校へ行くのが楽しい」はほぼ横ばいであるが、「授業がわかりやすい」 が昨年度より6ポイント下降している。「わかりやすい」の定義があいまいで はあるが、主体的・対話的で深い学びが要求されている今、相応の工夫がな されていないとき生徒にとっては「わかりにくい」状況になるのだと考えら れる。生徒の主体的・対話的な取り組みを進めるような授業改善に取り組んで いく必要がある。 「学校行事、部活動に対する評価」が昨年比で2ポイント下回っている。行 事については生徒のニーズの変化に対応していくことが望まれる。部活動に ついては、部活動の在り方の指針を受けて活動時間に制限を設けたことが少 なからず影響しているように思われる。 「学習環境が整っている」が昨年から5ポイント減少している。学年別にみ ると1年生63.1%、2年生60.9%、3年生70.9%である。授業中の雰囲気は 全学年落ち着いた雰囲気を形成しているが、トイレ等のアメニティに関わる 設備の老朽化や電子黒板等の教育機器の充実が課題である。 「挨拶をする」「遅刻をしないように心がける」「学校のルールを守る」はい ずれも昨年から横ばいであるが、常に90%以上の高い水準を保っている。学 校全体の規範意識は高まっている。 また、保護者の診断結果は「学校への満足度」「授業の評価」「進路指導に 対する評価」「生徒指導に対する評価」の4項目で平均5ポイント上昇した。				

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成	(1) 基礎学力の定着と活用型学力 ア 基礎学力の向上と進路指導	(1) ア・「主体的な学びのある授業」のための授業改善 ・授業変革のためのミドルリーダー育成のため講習会を校内にて実施 ・今後求められる学力とそのための授業変革について生徒に周知 ・評価に関する教務内規の見直し ・「学びの基礎診断」活用による基礎学力充実と進路実現のための分析と指導、保護者への情報提供 ・ペーパーレス会議等の実施により教材研究の時間を確保 職員会議資料の精選、様式の統一、資料をデータの形式で提供	(1) ア・自己診断「授業評価」の肯定率70%以上(H30「授業のわかりやすさ」:72.84%) ・講習会は年3回以上実施。(H30:4回) ・成績の出し方について、生徒に周知する。 ・教務内規見直しに関する会合の実施と結果の職員会議における周知 ・新たに採用するテスト結果の分析及び保護者への周知を行う。(テスト毎) ・進路実現に関する満足度85%(H30:86.3%) ・ペーパーレスまたは資料作成の時間の軽減等により教員になるべく負担をかける会議を実施(常時)	(1) ア ・「授業はわかりやすい」の回答は66.1%で昨年より6ポイント下回った。主体的な学びを実践する授業改善の取組みが急務である。 () ・ミドルリーダー育成の「熱打会」を3回開催した。() ・成績の出し方については、各教科担当者が年度当初のオリエンテーションにて説明した。() ・教務部で内規の課題点について検討、確認した。() ・「学びの自己診断」を実施しデータ分析と保護者への周知を行った。() ・進路実現に関する満足度は85.6%で高い水準を維持することができた。() ・資料の精選、用紙の両面印刷などに取り組んだが、ペーパーレスまでには至らなかった。() ()
	イ 主体的・対話的学びの実践	イ・主体的・対話的な学びのある授業の実施とICT機器の活用研究	イ・主体的・対話的な学びのある授業の実施率の増加(H30:40.0%)	イ ・主体的・対話的な授業、いわゆるアクティブラーニングを取り入れた授業の全体に対する割合は40.4%で昨年とほぼ同じであった。 () ・ICT環境についてはルーターを各階に設置。特別教室を中心にタブレット端末が使用できるようになった。()
	ウ 英語授業の改革	ウ・英語専門コース及び英語授業一般において、4技能伸長のための授業の改革を実施 ・4技能をバランスよく指導する。特にスピーキング力の養成に努める。	ウ・授業におけるスピーキングの指導割合の増加 ・英語専門コースの授業アンケート「授業満足度」3.2以上を維持(H30:3.2) ・スピーキングコンテスト等複数学年で実施(年1回)	ウ ・授業におけるスピーキング指導の割合約50% ・英語コースの授業満足度は3.38で昨年を上回っている。() ・1・2年生全員にGTECを受験させ、スピーキングテストを行った。()
	エ 家庭学習の定着	エ・放課後学習と週末課題の組織的取組み	エ・週末課題等の提出率9割以上(H30:10割達成)	エ ・週末課題の提出率は昨年に引き続き100%を達成している。()
	オ 各種検定試験への取組み	オ・資格試験等の対策指導を行い意識を高める。	オ・年間の資格試験等の校内実施	オ ・英語検定3回、漢字検定3回、数学検定2回、校内で実施した。()
	カ 国際交流活動の推進	カ・海外からの教育旅行を受け入れ異文化交流を行う。 ・米国派遣事業の継続実施	カ・教育旅行1校受入れ ・米国派遣10名以上参加(H30:10名)	カ ・2/6 台湾台中第一高級中学生を受け入れて交流を行った。 3/14~3/25 のアメリカ短期語学研修に12名の生徒参加予定であったがコロナウイルス関連で中止になった。
	(2) 高大接続改革への対応準備 ア 「確かな学力」育成と評価の研究	(2) ア・「2020年問題検討委員会」を中心とした「確かな学力」の育成方針・方法と評価方法の研究と研修 ・「学びの基礎診断」を参考に適切な実力審査を選定と共に実施、分析を行う。	(2) ア・「2020年問題検討委員会」による高大接続改革に関する研修を年2回行う。(H30:3回) ・保護者に対する分析結果通知まで確実にを行う。	(2) ア ・国の高大接続改革に伴う入試制度の計画が大幅に変更されたため、研修を取りやめ職員会議での情報の逐次伝達に努めた。() ・保護者への周知は随時実施した。()
	(3) 新カリキュラムへの対応 ア 新教育課程の策定	(3) ア・ロードマップの策定と提示 ・改定に伴う問題点の洗い出し ・校内アンケートの実施 ・「探究」対応のための委員会の設置	(3) ア・すべて1学期中に実施 ・「探究委員会」の設置	(3) ア ・2学期時点で新カリキュラム(案)は一部科目の授業時数調整を除きほぼ完成している。() ・探究委員会により、昨年度未定であった2年生の「探究」のテーマおよび、活動計画を策定した。()

府立枚方津田高等学校

<p>2 生徒の自信を育む「生徒指導」の展開</p>	<p>(1) 規範意識の醸成 ア 遅刻と服装指導、授業規律の徹底</p> <p>イ 人権教育の推進</p> <p>(2) 教育相談・支援教育・規律指導が三位一体となった生徒指導 ア 教育相談の充実と関係機関連携</p> <p>(3) あいさつの励行 ア あいさつ運動の展開</p>	<p>(1) ア・遅刻指導・服装指導の継続実施 ・適切な授業規律指導により落ち着いた学習の場を維持する。</p> <p>・教育相談・支援教育の観点を加味した適切な規律指導により生徒の規範意識を醸成する。</p> <p>イ・特別活動等で人権尊重意識醸成の取組みを行う。</p> <p>(2) ア・教育相談・支援教育の充実を図り、年間を通じて個別ケース検討を行ない、個に応じた合理的配慮や支援を行う。 ・必要に応じて中学校・福祉・司法・行政などの関係機関の協力を得る。</p> <p>・教育相談・支援教育に関する事例検討等も含めた研修を実施し理解と力量を高める。</p> <p>・生徒にとって相談しやすい環境を創造する。</p> <p>(3) ア・「誰にでもあいさつできる津田高」をつくりだすため、集会等で挨拶の重要性を説き、あいさつ運動を行う。</p>	<p>(1) ア・年間遅刻数 800 件未満の維持(H30:485 件) (集計方法を変更) ・自己診断(生徒)の「落ち着いた学習環境」への肯定率 70% を維持(H30:70.0%) ・自己診断(生徒)での規範意識の肯定率 95%程度を維持(H30:96.4%)</p> <p>イ・人権に関する講演会を 1 回開催(H30:1 回)</p> <p>(2) ア・教育相談・支援教育に関するケース検討(20 回以上) (H30:22 回) ・関係機関連携を必要に応じた回数確実に行う。(昨年延べ 16 回) ・教育相談・支援教育に関する研修を 1 回実施(H30:1 回) ・自己診断での教育相談の肯定率上昇(1 ポイント増) (H30:63.5%)</p> <p>(3) ア・自己診断の「あいさつをしている」85% 以上(H30:90.8%) ・早朝のあいさつ運動実施(年間 30 日以上)(H30:32 日)</p>	<p>(1) ア ・遅刻件数は 786 件で昨年並みである。() ・「学習環境」への肯定率は 65%で 5 ポイント下降した。トイレの改修や、電子黒板等の設備に関する要望がある。() ・規範意識の肯定率は 94.5%であった。一定の水準は維持された。()</p> <p>イ ・11/7 に「桂福点さんによる講演会」を実施。生徒の人権意識に関する肯定率は 89.7%で昨年を 5 ポイント上回っている。()</p> <p>(2) ア ・教育相談・支援教育に関するケース検討を 46 回開催した。() ・中央子ども家庭センター、枚方市子ども相談等と 1 月現在延べ 12 回の情報交換を行った。() ・7/23 に不登校等に関する職員研修を人推委とタイアップで実施した。 ・教育相談の肯定率は 65.2%で昨年より 2 ポイント上昇した。()</p> <p>(3) ア ・自己診断の「あいさつをしている」は 89.2%で一定の水準を維持している。 ・あいさつ運動は生指週間で 25 日、部活で 15 日実施した。()</p>
<p>3 「生きる力」を育成する学校行事・部活動の充実と地域連携</p>	<p>(1) 行事や部活動による主体性・協働性と愛校心の育成 ア 生徒主体の行事運営</p> <p>イ 生徒主体の部活動運営</p> <p>ウ 中学生体験入部や交流の推進</p> <p>(2) 地域行事等への参加と広報活動 ア 地域行事等への参加</p> <p>イ 生徒・教職員一体の広報活動</p> <p>ウ 学校説明会と中学校訪問</p>	<p>(1) ア・生徒が主体となるよう学校行事の企画・運営を工夫し、生徒の自信と自己有用感を育む。 同時に HP 等を利用し保護者への広報を強化する。</p> <p>イ・部活動での生徒の主体的活動を支え、社会性やリーダーシップ、組織運営力など「生きる力」を育成する。</p> <p>ウ・中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。</p> <p>(2) ア・地域の行事や近隣の企業等のイベント等に積極的に参加し「地域の中の津田高」を意識することで愛校心を育む。</p> <p>イ・生徒と教職員による中学校・中学生への広報活動。</p> <p>・英語専門コースの生徒による、学校説明会や地域の小中学校を訪問してのプレゼン等により学校の魅力を伝え、生徒の自尊感情や自己有用感を育む。</p> <p>ウ・独自の学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」となる。</p>	<p>(1) ア・イ ・自己診断(生徒)の学校行事及び部活動への満足度 85%以上(H30:82.1%) ・行事ごとに HP に情報を掲載 ・1 年生の入部率 70%を維持(H30:69.5%) ウ・「部活動体験会」などを 1, 2 学期で 5 回以上実施(H30:14 回) ・部活動交流に参加する中学生 500 名以上(H30:527 人)</p> <p>(2) ア・地域の行事等への参加(3 回以上)(H30:8 回)</p> <p>イ・中学校向け広報紙の発行と配布(6 回以上)(H30:7 回)</p> <p>・地域の学校での生徒によるプレゼンや広報を積極的に展開する。</p> <p>ウ・中学校訪問 60 校(80 回)(H30:65 校 81 回)</p>	<p>(1) ア、イ ・学校行事及び部活動への満足度は 80.8%で 2 ポイント下降した。課題を検討する必要がある。() ・行事ごとに HP の更新を適宜実施するとともに、9 月から学校公式インスタグラムを新たに開始した。() ・HP に校長ブログを新規コンテンツとして追加した。 ・1 年生の入部率は 78%で 8 ポイント上昇した。()</p> <p>ウ ・部活動体験会を 6 月に 6 回、11 月に 7 回計 13 回実施した。() ・部活動交流に参加した中学生は 400 名()</p> <p>(2) ア ・R01:生徒会 4 回、吹奏楽部 3 回、植物部 2 回参加した。()</p> <p>イ ・広報誌「津田高通信」を 5 回発行し中学校に配布すると同時に、学校最寄り駅構内に掲示するなど学校の PR に努めた。() ・新たに学校の魅力を紹介するための学校紹介 DVD を 2 学期に撮影し、1 月の説明会に活用した。()</p> <p>ウ ・中学校訪問 60 校に対して 79 回実施し情報交換に努めた。()</p>